

# 被ばく者は第五福竜丸の仲間だけじゃない

## 被災67年のビキニデーを牽引した高知の不屈の闘い

本会常任世話人  
長谷川 千秋

1954年3月1日、アメリカが太平洋マリアル諸島のビキニ環礁で行った水爆実験による被災から67年。これを契機に日本から起こり世界へ広がった原水爆禁止運動が追いかけてきた核兵器禁止条約が1月に22日発効。今年のビキニデーは、

国際法上、核兵器が違法化された中で初めて開催されるという意義深いものになりました。コロナ禍のためオンライン集会となった原水爆禁止世界大会実行委員会など主催の「2021年3・1ビキニデー集会」や、高知で初めて取り組まれた「ビキニ

デー高知」の諸行事を通じて感じたことを報告します。

本腰が入った「ビキニ事件」は終わっていない

何よりも印象深かったのは、埋もれていた郷土の被災実態を掘り起こし「被災者は第五福丸の仲間だけじゃない」と国を相手どり裁判闘争に挑む高知の闘いが全国の反核平和運動関係者に目に良える形でした。原水爆禁止運動でも長年、ビキニと言えば第五福丸でした。高知の取り組みが具体的に紹介されたのは実質去年からです。

でも、今年には本腰が入った感じでした。日本原水協作成の前パンフでは高知原水協の「ビキニ事件は終わっていない」一文が大きく紹介されました。3・1ビキニデー集会の主催

者報告で原水爆禁止世界大会実行委員会運営委員会共同代表の野口邦和さんが「ビキニ事件では、第五福丸以外の延べ1万人を超える船員が被災したと推定されている。しかし、政府が調査に真摯にとりくまないため67年経った今日においても全容解明にはと遠い。政府が従来の態度を改め被災の全容を解明し、被災者と遺族に賠償と補償を誠実に行うことを強く求める。核兵器廃絶を願う世界の人々と連帯し、核被災者支援の前進をはかる目的で高知で開催される『ビキニデー高知』への連帯を表明する」と明快に宣言。高知ビキニ訴訟を支援する会事務局の橋本一さんの現地レポートとともに事後の報告集にしっかり収録されました。

世界の核被災むすぶネットワークづくりを

その「ビキニデー高知」は、核実被害者の故郷も締約国に義務付けた「核禁条約」の発効を視野に、志高く高知の実行委員会が昨秋立ち上げられ、準備し

てきたものです。3月5日から14日までの10日間、コロナ感染対策を徹底する中で、核被災写真展や映画会、第五福丸と同じビキニ海域に出漁していた高知の元漁船員らから話を聞くフィールドワークなど、7口の全体集会高知城ホールを挟んで多彩に繰り広げられました。取り組み報告の詳細は太平洋核被災支援センターHP(https://www.pncc.or.jp/55.html)をお読みください。

今一つ、高知の闘いは「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ」の地球市民運動と分かちがたく繋がっているの思いも新たにしました。高知の運動の先頭に立つてきた山田正寿・太平洋核被災支援センター事務局長は、集会の基調報告で「世界の核被災ネットワークづくりと被ばく者、被災者への補償制度の確立を進めよう」と呼びかけました。

この1両年、高知の闘いを支える国際発信の動きが活発化しています。パリ在住の映像作家、

【3面に続く】

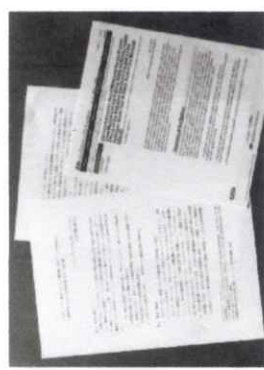


「ビキニデー高知」で行われたフィールドワーク報告会(2021年3月6日)。元漁船員と高知市大学生や地産、兵器などをめぐり39人が交流。元漁船員は「28人の仲間が亡くなった」「汚染された水爆のマグロを食べたことなど、参加者からは「賠償は誰が前にのめりてほしい」との感想が聞かれました。(写真は主催者提供)

## 核禁条約発効を追い風に全国、国際社会へ発信

### 【2面からの続き】

渡辺謙一さんが制作したドキュメンタリー映画「我が友、原子力く放射能の世紀」の中でビキニ被災元漁船員のインタビューなど高知の動向が取り上げられ、昨夏、欧州のテレビで放映。秋には日本でもらか所で上映されました。南海放送(愛媛県松山市)ディレクターの伊東泰朗さんは「長年、被災実態を追い「放射線を浴びたX年後」の番組や映画を作って訴えてきましたが、クラウドファンディングで資金を調達した映画「X年後」の第3弾を制作中。核船大岡アメリカでの上映と語りかけ活動を目指しています。伊東さんの思いは法學研究所の「今週の一言」(昨年7月27日付)に込められています。http://www.jiel.jp/tokoto/backnumber/20200727.



### 日弁連が意見書 英語版も

日本弁護士連合会は昨夏、「太平洋・ビキニ環礁における水爆実験で被ばくした元漁船員らの健康被害に対する救済措置を求める意見書」を首相はじめ関係者へ提出。英語版も海外へ発信されました(写真右)。高知の訴

訟弁護団員でもある日弁連国際人権問題委員会事務局長の大野鉄平弁護士は、全体集会でのパネルディスカッションで、今後日本政府の対応を審議する国連の自由権規約委員会にこの日弁連意見書が提出されることを明らかにしました。

「ビキニデー高知」全体集会の当日、第五福丸元乗組員の大河又七さんが87歳で逝去されました。深く哀悼の意を表します。ビキニ事件をうやむやにはさせないと、大石さんの核廃絶を訴える講演活動は7百回を超えたといえます。「核禁条約」の発効という核をめぐる国際規範の発展の中で、高知の闘いの意義と課題はますます重みを増しています。

(元朝日新聞大阪本社編集局長)